

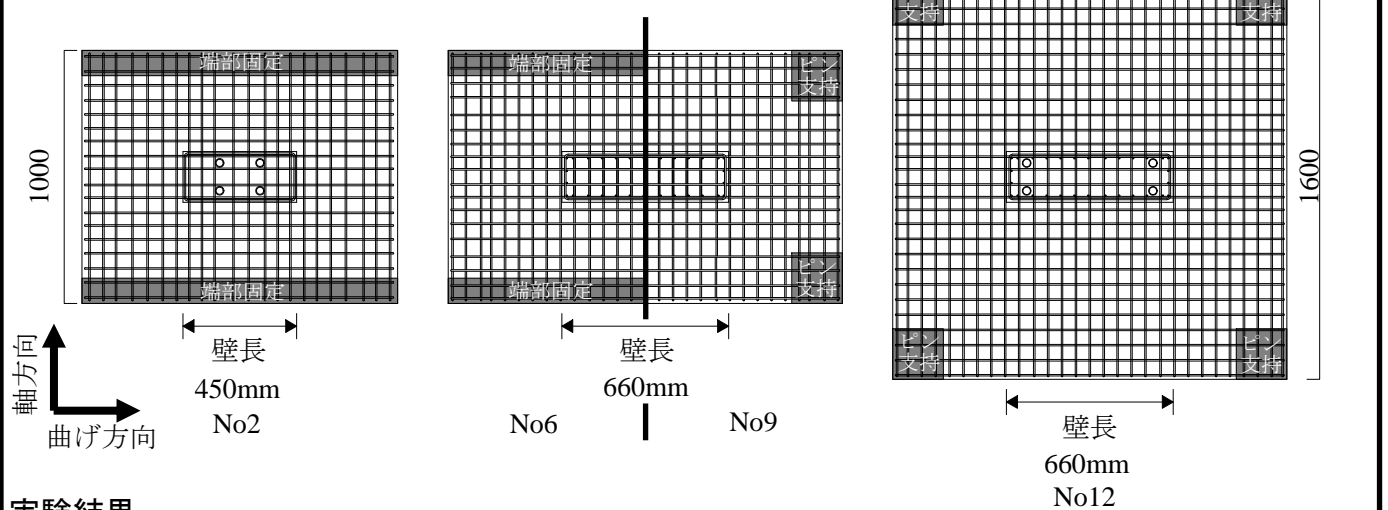
コア壁—フラットプレート接合部における周辺スラブの応力機構に関する研究

島崎研究室 綿貫裕基

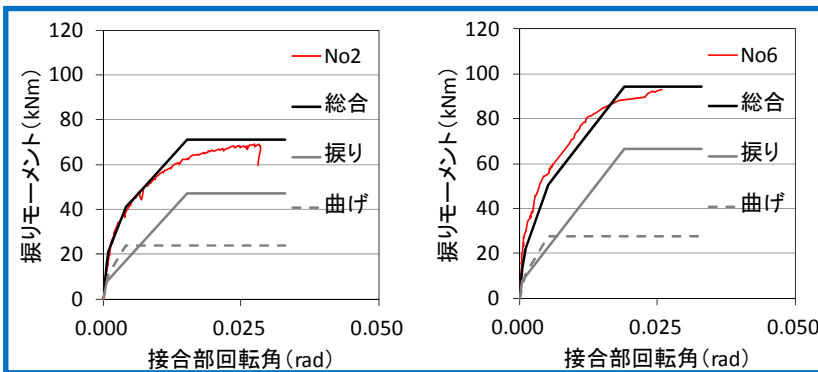
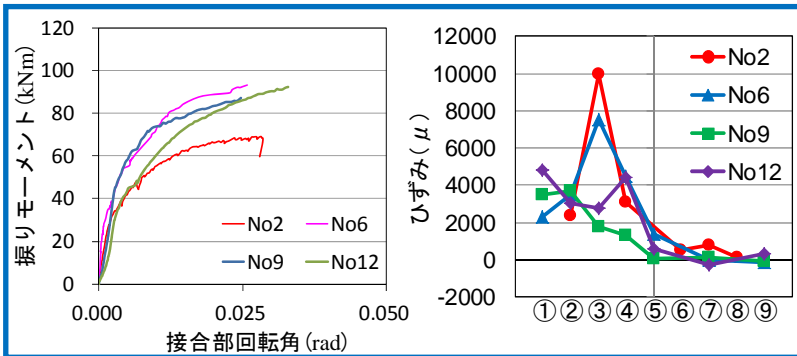
研究概要：梁を用いないフラットプレート架構は一般的なラーメン構造と異なり、平面上で二次元的な応力分布となる。また、壁は柱よりも壁長が長いいため側面スラブに捩り力が大きく生じ、復元力特性を把握する必要がある。

研究目的：本研究は、壁長、スラブの長さ、スラブ支持点等をパラメータに持つ全17体の試験体の実験結果を用い、応力機構の検討、復元力特性の推定を目的とする。

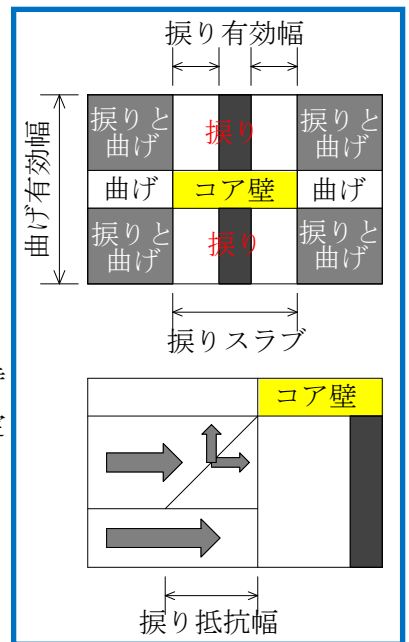
研究成果：試験体概要



実験結果



応力機構
の検討



復元力特
性の推定

感想：実験をするにあたって、実験計画を組んだとしても思い通りにいかないことばかりで、実験を行う時期がどんどん先延ばしになったが、その時間も大切に使い、遠回りすることで研究全体について深く知ることができたと思います。